資料１

令和３年度事業の実施状況について

１　㈱かづのパワーの事業再開

令和３年２月に市場価格の高騰により事業を休止したが、令和４年４月１日から事業を再開し、市公共施設（52 施設 2,880kW）に電気を供給している。

事業再開モデルについては、仕入面と販売面の検討を行い、仕入面はみんな電力（㈱UPDATER）が提供するサービスにより、仕入金額を一定金額とし、販売面では電気料金を仕入価格に連動させる料金メニューを作成した。

２　鹿角市エネルギービジョンの策定

令和４年２月に「鹿角市エネルギービジョン」を策定した。

「脱炭素社会の推進と地域経済の循環・成長により豊かさと希望を体現し続ける、エネルギー自立都市」を目指す将来像とし、令和 12 年度までの本市のエネルギー利用の方向性を定めた（概要は別紙参照）。

３　2030 ゼロ・カーボンシティ宣言

令和４年３月 14 日に 2030 年までに二酸化炭素排出量を実質ゼロにする「ゼロ・カーボンシティ」の実現を目指すことを宣言した。

かづのパワーによる地産再エネ電気の供給を脱炭素の軸としながら、2030 年までにカーボンニュートラルの達成をするためのロードマップとして、市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）を令和４年度に策定することとした（案件２資料）。

鹿角市ホームページ＞市政・まちづくり＞地域活性化＞新エネルギー＞鹿角市 2030 ゼロ・カーボンシティ宣言

https://www.city.kazuno.akita.jp/shisei_machizukuri/shiikikasseika/4/8380.html

裏面に続く→

４　再エネ水素の利活用

本市の豊富な再生可能エネルギーを活用して水素を製造し、化石燃料の代替や電力の貯蔵などに利活用するための方法を調査した。

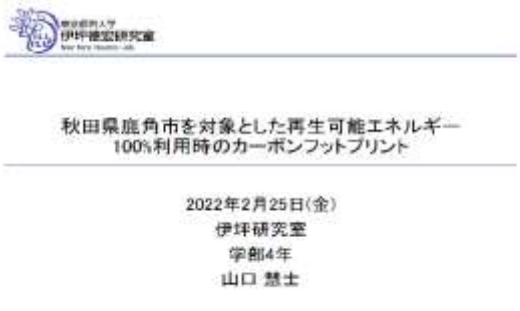
水素をエネルギーの貯蔵・輸送方法とした地域間融通によるエネルギーの供給網構築を水素利活用の将来像としてイメージし、 将来像実現のための必要な段階を検討した。また、まちなかオフィスを中心とし、電力需給調整に水素を製造・利用するプロジェクトを想定した概念設計を実施し、事業の概要や必要な要素、費用感などを把握した。令和４年度に具体的なプロジェクトの詳細を検討することとしている。

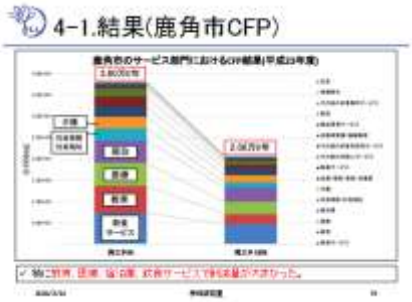
５．鹿角市内の二酸化炭素排出量の見える化

東京都市大学と連携して温室効果ガス（以下 GHG）排出量の可視化を目的とした調査を実施し、LCA※の手法で、①平成 23 年度鹿角市産業連関表を基に市内で 1 年間に排出される GHG 排出量と、②感動鹿角パークホテルの 1 か月間の企業活動を基にした GHG 排出量の算定を行った。

電気使用を再エネにしたときに総排出量の 1/3 程の GHG 排出量の削減が見込まれるほか、サービス部門、特に医療、教育、宿泊、飲食の分野での再エネ電気化が GHG 排出量の削減効果が高いことが見込まれた。

※LCA…Life Cycle Assessment（ライフ・サイクル・アセスメント）。製品やサービスに対する環境影響評価の手法。





鹿角市ホームページ＞市政・まちづくり＞地域活性化＞新エネルギー＞普及啓発＞本市の温室効果ガスの排出量調査
https://www.city.kazuno.akita.jp/shisei_machizukuri/shiikikasseika/4/4/9179.html